

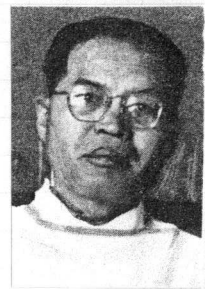
橋本繁雄 しげひこ 評論家、小説家。明治四十二年十一月十日東京生れ、
 昭和五十八年二月十日自殺（一九〇一—三三）。筆名春日明、春日迪彦。みちひこ
 和十年東京帝國大學工學部冶金學科卒。フランス大留學後、東京工業大
 學教授を経て京都産業大學教授。金屬結晶學専攻、工學博士。一方文
 學に親しみ、小説「フライブルクの宿」が第一回夏目漱石賞の佳作に
 選ばれ、當選作（渡邊伍郎）、他の佳作（西川満・森川讓）と共に、
 「第一回夏目漱石賞當選作品集」（春日迪彦名、夏目伸八編、昭和二十
 三年二月二十日櫻菊書院）に収録せられた。また雑誌「月曜評論」ま
 生幸、タカ派の論客として鳴らした。

譯著書、ヴァレリー・ラド著「ルキ・パストゥール」(譯、昭和十六
 年四月二十日富山房)、傳記「物語十」
 人の肖像畫」(合著・武内俊二編、昭

和二十二年六月十五日雄鷄社)、評伝「近
 代文化の系譜」(合著・日本著作家組
 合編、昭和二十二年五月十日日本讀書
 組合)、評伝「新しいパリ新しいフランス



ス」(昭和二十七年十月二十日文藝春秋新社)、評伝「ロッキン
 とく」(昭和二十八年九月二十日読売新聞社「読売新書」)、評伝「ラ
 イブルクの宿」科学と文学」(昭和二十九年七月十日朝日新聞社「朝
 日文化手帖」)、評伝「現代文明を擔う人々」(昭和二十年二月二十日



新潮社「一時間文庫」)、評伝「某月某日」(合著・湯
 口茂輝編、昭和二十一年四月二十五日日本経済新聞
 社)、評伝「私の卒業論文」(合著・東京大学堂生新聞

会編、昭和二十一年十一月十五日同文館）、『私の人生ノート』（合
 著・毎日新聞社図書編集部編、昭和二十一年十一月二十日毎日新聞
 社）、『逃亡將校』（昭和二十五年一月十日角川書店）、『わが家の
 教育基本法』（合著・日本経済新聞婦人家庭部編、昭和二十八年九月
 二十一日日本経済新聞社）、『現代に抗議する』（昭和四十四年一月
 十五日日本教文社）、ジル・アンリ著マシムノンとメグレ警視』（訳、
 昭和五十五年九月二十五日河出書房新社）、『猪木正道の大敗北ーソ
 連を愛し続けし前防大校長の『言論抑圧裁判』の真相』（合著、昭和
 五十八年七月）二十日新報道）等。

